



NEW あしながファミリー

177号

2022年(令和4年)
8月25日

一般財団法人 あしなが育英会 TEL (03) 3221-0888
〒102-8639 東京都千代田区平河町 2-7-5 砂防会館本館 4階



編集責任者 玉井 義臣



「外国のレターセットやシールスタンプが可愛くて大好き」。オランダの女子高校生と文通を始めて1年。2か月に一度アニメやキャラクターについて英語の手紙を交換している

「人種差別に取り組む弁護士になりたい」
金城桜さんはこの夏のアメリカ留学で目標を見つけた。
小学5年生のとき父、一義さん(59)が脳梗塞で突然倒れた。病院で点滴や救命措置のたぐさの医療チューブにつながれている父の姿に衝撃を受けた。その記憶が今でも残っている。
「ひとりの大人として、家族と一緒に父の闘病に参戦しないといけない」
自分のことは自分でやるのはもちろん、父と一緒に通院し家事を手伝った。一義さんは回復に向かったが記憶障害が残り、働くことができなくなった。

人権を守る弁護士になりたい

そんな中、人生について多くの疑問が浮かんだ。
「愛とは？ 障がいとは？ 正しいことは？」
頭の中が整理できず、ウツワジと悩んでいる自分もどかしかった。
転機は小学6年生のとき。いつも全身真っ赤なジャージの熱血先生との出会い。一年間、毎週のように作文ノートと交換し質問と返事を繰り返した。

先生と交わした作文ノート

転機は小学6年生のとき。いつも全身真っ赤なジャージの熱血先生との出会い。一年間、毎週のように作文ノートと交換し質問と返事を繰り返した。

なかま

金城 桜さん (17) 兵庫県・高校2年

「人生は白黒はっきりしていない。グレーゾーンもいっぱいある。自分を苦しめるのではなく、広い心を持つことが大切だよ」。熱血先生の言葉が心に響いた。目の前の課題に打ち込めるようになった。
中学生になってからは勉強やクラブ活動に積極的に取り組むようになった。高校では国内と海外の文化にも関心が広がった。茶道部でお茶会に参加したり、海外の高校生と手紙のやり取りがはたかして、郵便局のペン

米短期留学で学んだこと

フレンドクラブに申し込んだ。小学生のときに障がいを持った友人がいた。周りから差別を受けている彼女を見て心を痛めた。警察官が夢だった正義感の強い父の影響もあり、困っている人を助ける法律家になりたいと思った。
桜さんは今夏の在日米国大使館などが主導している、「TOMODACHIプログラム」に応募し無償留学のチャンスを得た。ロサンゼルスでのホームステイや学校訪問を通じて、米国の歴史や多様なストーリー



今夏、米国ロサンゼルスに短期留学。ホームステイ先のホストファミリーの娘さん(右から2番目)と一緒に応援したバスケットボール観戦が一番の思い出。留学最終日のお別れパーティーで研修仲間と(左から)番目が桜さん

に触れる10日間。その中で全米日系人博物館とホロコースト博物館で人種差別などの人権について学んだ。ロサンゼルスで知り合った弁護士と話す機会があった。
大学では司法試験の合格を目指しながら、「人生の疑問を問いつける」ために哲学も勉強したい。
授業料や下宿代は自分で賄うつもりだ。学費などを調べていくうちに、あしなが育英会の学生寮「心塾」の存在を知り、第一志望は東京の大学に決めた。
悩んだことをチャンスに

母の恵さん(59)が経理の仕事で家族を支えている。
「心が広くて、くよくよしていないところを私には見せない。いつも『やりたいことを我慢しなくていいよ』と励ましてくれる」
「お父さんが倒れてしまい、自分の存在を忘れてしまうこともあった。でも私が積極的に自立できたのは、父親の看病や人生に悩んだ経験があったから」
あしながさんから頂いたチャンスに感謝しながらさらに自分の可能性を信じて頑張りたい。
「法律の力で差別に苦しむ人々たちを応援したい。将来、多民族の国・アメリカで働くことが目標です」
(八木俊介記者)

今号の紙面

あしなが奨学金、来年度採用から改革 (3面)
全国募金リレー前半終了 (4~6面)

奨学生の残暑見舞い、写真、イラスト大特集 (8~13面)
ACジャパン、本会支援キャンペーン開始 (18・19面)



胸躍る理系奨学生の話

編集長 玉井 義臣



理系大学生の苦勞を聞きたいと集まってもらいましたが、私が元氣をもらいました。左から長谷川駿君、永尾優奈さん、(私をはさんで) 山本優君、森瑛麗亜さん。8月18日、あしなが育英会本部で。マスクを一瞬外して、笑顔でパチリ。

- 「カーボンニュートラルなど環境に配慮された、人が笑顔になる建築を学びたい」(森瑛麗亜さん)
- 「量子コンピュータでも突破できない暗号方式に関心を持っています」(長谷川駿君)
- 「生物と化学、生物と物理を合体させた分野も学んでいきたい」(永尾優奈さん)
- 「社会インフラを支えるネットワークエンジニアとして、特にデータバンクの仕事をしたい」(山本優君)

あしなが奨学金で学ぶ理系の大学1年生4人の話を聞く機会がありました。正直言って、聞きなれない専門用語が多く、内容はほとんど分かりません。しかし、87歳の私の心は、わくわくしてきました。半世紀以上前、たった一人で始めた遺児支援の「あしなが運動」ですが、熱く目標を語る奨学生を見ると、「続けてきて、本当によかった」と思います。

4人とも子どものころに親を亡くしたり、家族に障がいがあり、経済的にも厳しい環境で生きてきました。さらに、理系は文系に比べ学費や教材費も高いのが一般的です。

それでも、この4人は、自分を支えてくれた人たちへの感謝の気持ちを切々と話してくれました。あしながさんにも、ぜひ聞いていただきたいので、ご紹介します。

森さん 「4歳の時に父を亡くしました。兄は生まれつき障がいがあります。祖母と母に支えられてきました。これからは、私が家族を守って、恩返しをしていきたいです」

長谷川君 「小1で父を亡くしました。家には大学で情報工学を専攻した父の本がたくさんあり、その本を読んできました。父が残してくれた本が僕の進路を拓いてくれました。」

永尾さん 「両親が離婚後、私と兄は母と暮らしていましたが、その母も私が小3の頃に亡くなり、母方の祖母に育ててもらいました。今、好きなことを学べるのは、祖母やあしながさんのおかげです。そうした方に感謝しながら勉学に励んでいきます」

山本君 「母は重い障がいが入退院を繰り返しており、私は小さいころから祖父母と暮らしてきました。その母が、私が大学に進学する際、積み立てていた障害者年金を渡してくれました。そばにいらなくても、私を思っていてくれた母への感謝の気持ちでいっぱいです」

8,000人を超す奨学生は、それぞれの境遇を受け止め、懸命に生きています。夏休みも終わり、授業が始まるね。がんばれ、あしなが奨学生。

(2022.8.25 記)

高校 給付月額 1万円増

あしなが奨学金 来年度採用から改革

2022年度までの採用者

あしなが奨学金の種類		給付	貸与	月額
高校・高専	国公立	20,000円	25,000円	45,000円
	私立	20,000円	30,000円	50,000円
大学・短大	一般	30,000円	40,000円	70,000円
	特別*	30,000円	50,000円	80,000円
専修・各種学校		30,000円	40,000円	70,000円
大学院		40,000円	80,000円	120,000円

2023年度以降の採用者

あしなが奨学金の種類		給付	貸与	月額
高校・高専		30,000円	0円	30,000円
大学・短大	一般	0円	40,000円	40,000円
	特別*	0円	50,000円	50,000円
専修・各種学校		0円	40,000円	40,000円
大学院		0円	80,000円	80,000円

※経済的に特に困っていると認められる大学奨学生に適用される制度。本人からの申請によって採否を選考します。

大学等は無利子貸与に1本化 国の支援強化に対応

コロナ禍、ウクライナ侵攻……厳しさを増す世界を生き抜くため、親をしくした子や、親が障がいや働けない家庭の子には、ぜひ大学に進学してほしい。あしなが育英会は、この大きな目標に向けて、高校生への支援強化を重点とする奨学金制度の改革を決定した。オンライン教育費や受験費用(受験料・交通宿泊費等)が大学進学への高いハードルになっている実態を踏まえ、高校奨学金は返還不要の給付型を月1万円増額する(貸与型は廃止)。大学等奨学金は国の支援制度が大幅に充実したことを受けて、無利子貸与型返還期間最長20年)に1本化する。

あしなが育英会は、国に先駆けて2018年度から、高校生から大学院生までを対象に、給付型奨学金をスタートさせた。奨学生のアルバイト負担軽減が目的だったが、これにより、あしなが奨学金で学ぶ学生数はほぼ倍増した。給付型奨学金が遺

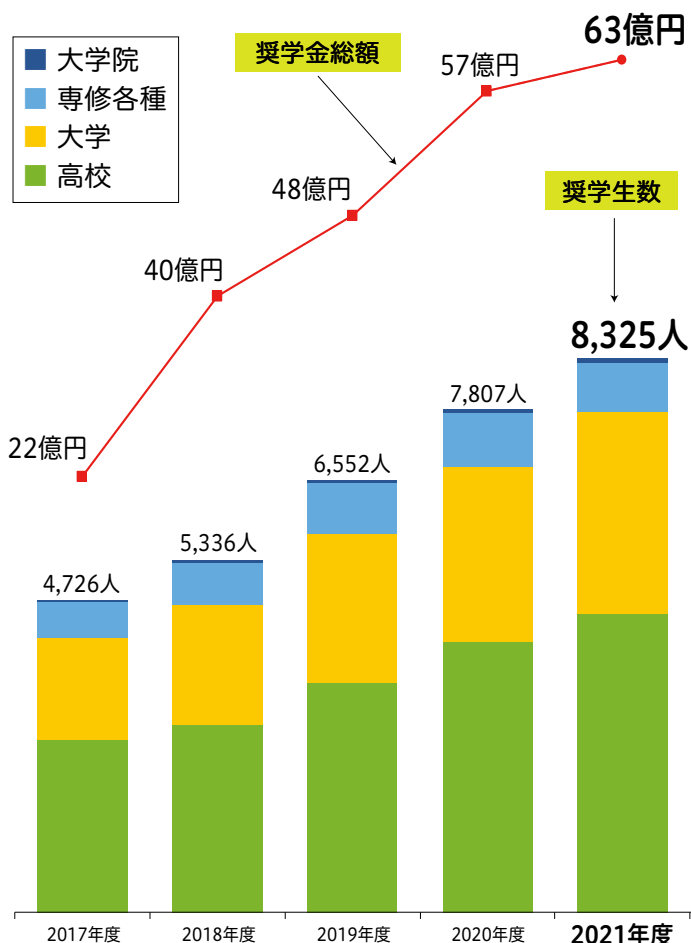
児の進学に果たす力は大きかった。本会はこの成果を長期的に持続、発展させるため、村田治・本会会長代行(関西学院大学学長、中央教育審議会委員)を中心に、奨学金改革の検討を進めてきた。村田会長代行は父親を交通事故で亡くし、奨学金で大学に進学した経歴を持つ。専門は経済学。AI(人工知能)の利用が急速に拡大し、経済格差・教育格差が広がる中、遺児の高等教育の必要性を痛感している。

遺児への情報支援も強化

高校奨学金を充実させる一方、大学生等の奨学金は貸与のみとしたが、これは国が2020年度に始めた大学等無償化制度(所得など条件

付き)で、相当数の遺児が対象になり、本会奨学金と併用可能なことも考慮した。ただ、日本学生支援機構(JASSO)による国の奨学金だけでなく、民間や大学独自の奨学金も充実してきているが、その情報が届いていない遺児家庭も少なくない。ぜひ、学校の窓口に相談してほしい。また、本会はスマートフォンでも最適の奨学金を検索できるシステム「Campass」を開発し、無償公開しているので、利用してほしい。

あしながさんのお寄付で、遺児たちは懸命に学び続けている。本会は今後も、遺児家庭の実態を深く探り、時代の状況、国の政策などにも常に目を配りながら、最良の奨学金、支援策を検討し、実行していく。



最適の奨学金 無料で検索

Campass 登録手続き不要

どなたでも利用できます

日本学生支援機構(JASSO)の奨学金もご確認ください。

(あしなが奨学金と併用可)

<https://www.jasso.go.jp/>



全国募金リレー

18道府県 訴えた遺児の苦しさ

北海道・青森から始まった全国募金リレーは、18道府県を巡り、7月9日、京都と兵庫で前半を終えた。2年半ぶりの全国規模の街頭募金に参加した奨学生やボランティアは、コロナや熱中症の対策をとりながら、遺児家庭の窮状を懸命に訴えた。

参加者の感想

何回も泣きそうになった

幼稚園の時に父と参加した時と同じく寒くて、感覚を思い出した。それと同時に、ボランティア側から自死遺児として支援される側になったこと

と感慨深かった。思い出して何回も泣きそうになった。袋にお金を貯めて持ってきてくださったおばあさんが、「夢だったの」といって自分の持っていた募金箱にお金を入れてくださった。自分たちのた

めにこんなに想ってくださっている方がいることを知って感動した。
(青森・大3)

感謝でいっぱい

たくさんの方々がお金を寄付してくださり、感謝の気持ち



群馬 真剣な表情で道行く人に呼びかけた＝JR高崎駅西口、6月11日



福井 コンゴ民主共和国からの留学生ベテモヤさん。「福井は第2の実家」＝JR敦賀駅、7月2日



石川 暑さの中、遺児の窮状を訴える大学奨学生＝金沢市近江町市場、6月25日



長野 梅雨の晴れ間となった長野県での募金当日。軽井沢で募金をしてくれた「小さなあしながさん」＝JR軽井沢駅南口、6月18日



福井 懸命な支援の呼びかけに、通りかかる人が応えてくれた＝JR福井駅西口、7月2日



群馬 「ありがとうございます」。頂いた善意に笑顔でお返し＝JR前橋駅北口、6月11日

ちでいっぱいになりました。自分の経験や障がい者家庭、遺児家庭のことを知ってもらえるように伝えることで、これからもそういった家庭の子どもたちへの寄付を続けていきたいのではないかと思います。また、寄付してくださった方の中で、自分も高校生の時に利用していたという方がいらっしやっただけが印象的でした。私もたくさんの方の寄付で支えられた分、誰かのために募金ができるようになりたいと思います。
(岩手・大2)

支援の輪を広げたい

本日、初めて実際にあしながさんにお会いすることができ、あしなが奨学生になって良かったなという思いが強くなりました。皆さんが、「がんばってね」「私の娘もあしながの奨学生で、もう卒業して結婚もしたよ」「私は孤児で中学校までしか教育を受けられなかったから、皆の支援をしてあげたい。私の全財産をあしなが育英会に寄付することをもう公的に決めました」といったような声がけ、お話をたくさんしていただきました。少しでも多くの子どもたちが家庭環境に関わらず進学という夢をかなえることができる世界の実現に向けて、多くの心強い味方がいるように感じました。この素晴

らしい輪を広げられるよう、自分自身も努力していきたいと思いました。
(宮城・大5)

っかには支える側」

募金をして感じたことは色々な方が私たちを支えてくれているということです。今まで私は募金や寄付金を寄せ

てくださる方はお金持ちな方々だと勝手に思い込んでいました。しかし街頭に立ってまったく普通の方が募金をしてくださっていることに気がつきました。なかには年金暮らしだという方もいました。楽ではない暮らしの中でわざわざ私たちのために協力してくださることに大変心を動かされ、いただいた奨学金は大切に使わなければいけないと思いました。そして私が働くようになったら募金をする側になりたいと強く思いました。
(福島・大4)

お礼を言えて良かった

実際に募金活動をしてあしながさんたちにお会いしたことで、自分がもらっている奨学金についてのあしながさんの思いを感じることができました。募金活動をしている時に、あしながさんからの思いを受け取ることができたので、実際に目を一人ひとりに合わせながらお礼を言うことができてよかったです。
(茨城・大3)

第100回 街頭募金

募金リレー前半 大きな手応え



滋賀 街頭募金は支援者の想いを知る機会になる＝JR草津駅西口、7月2日



新潟 ご寄付者に話しかけられ、笑顔で応じる＝新潟市古町、6月18日



栃木 「遺児とその家族の生活基盤を守りたい」。当日は今にも雨が降り出しそうな中、多くのご支援をいただいた。貯金箱を丸ごとお持ちくださった方もいた＝JR宇都宮駅、6月11日



京都 祇園囃子が鳴り響き、古都での募金も盛況だった＝四条烏丸、7月9日



富山 学生だけでなく社会人のボランティアも参加してくれた。当日、多くのマスコミが取材に来てくれた＝JR富山駅、6月25日

恩送りを感じた

募金活動の開始時に、学生宛てに直接手渡ししてお手紙をくださったあしながさんがおり、今日一日がんばろうという気持ちがさらに高まりました。また、近くのコンビニの店員さんが、お菓子を差し入れてくださったなど、募金とは異なる形であっても、応援してくださる想いに感動しました。募金をしてくださる方の中には、ご主人があしなが奨学金を利用していただこうという方もおり、これが恩送りの一つでもあるのだと感じました。「がんばってね」としみじみと願いを託すかのように言葉をくださる方もおり、学生としての自分を忘れずにより一層がんばろうと思いました。

(栃木・大4)

1日の活動を誇りに思う

多くのあしながさんに出会えたことで自分たちを支援してくださっていることを強く再認識できました。中には数年前の街頭募金に参加したというあしながさんとも出会って、この街頭募金の伝統をつなげられていることを誇りに思いました。ヒラ配りなどでは受け取ってもらえないこともあったけれど、感謝の言葉を伝えることができてよかったです。声かけについても周囲と協力して行うことができ

自分も頑張らなければ

「応援しています」と声をかけてくださる方、募金をしてくださる方、一度募金場所を通り過ぎた後に再度わざわざ戻ってきてくださった方など、たくさん温かい瞬間に触れ、心から感謝の気持ちを感じました。こんなにもたくさんの応援してくださる方がいることを知り、自分自身ががんばっていかねばと改めて強く感じた。実際これまで、貧しい立場にある人はその状況から抜け出しにくい世の中だと少し思っていたが、理由を知れば、応援したいと思ってくくださる方がたくさんいるのだと思った。(長野・大2)

関心を向ける大切さ

実際に募金をしてみて、お金を入れてくれた人の優しさや気遣い、温かさを肌で感じ、私たちに目を向けてくれていること自体をうれしく感じました。この先自分が何かの募金をしている場に通るかかった時、もし余裕がなかったとしても、少なくとも「少しでも関心を向ける」ということを行いたいと感じた。次回の募金でも、感謝の気持ちを持って、活動を未来につなげるために声を上げていきたい。(石川・大3)

第100回 街頭募金

全国募金リレー

街頭で感じた あしながさんの愛



兵庫 ボランティア参加してくれた百合学院高等学校のみなさん＝JR 芦屋駅、7月9日



兵庫 「頑張ってや」。ご支援者から励ましのひと言で、更に自分や後輩たちのために行動しようと思った＝JR 住吉駅、7月9日

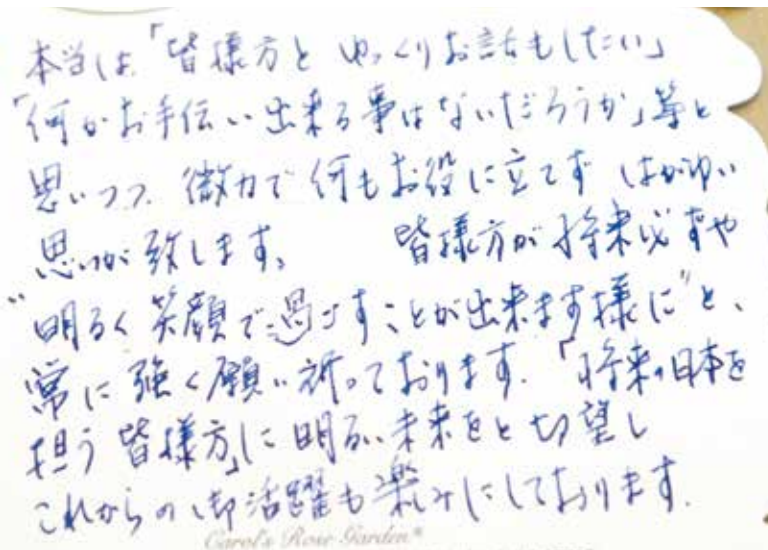
▶毎回募金後、参加者は特製リボンに次開催地へ激励などメッセージを託す＝京都



北海道から各地を巡り集まったリボン。各地拠点責任者のタスキに束ね光輝く＝兵庫・三ノ宮



▶ご支援者から直接お手紙を頂きスタッフは涙した＝兵庫



募金リレー後半は10月再開予定



兵庫 無事に前半最後の募金を終えた。振り返りの会では、街頭であしながさんの愛に感動したとの声が多かった。「この気持ちを後半の募金開催地に伝えたい」＝神戸レインボーハウス、7月9日

受け継がれていく募金

昔自分もあしなが育英会から奨学金を借りていたという方に会いました。その方も募金して下さり、こうやって受け継がれていくものでもあるのだと感じました。本当に多くの世代の方が募金してくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。
(滋賀・大3)

奨学金の成り立ち知る

これまではあしなが育英会からの奨学金は政府のようにどこかから湧いてくると錯覚していましたが、実際にあしながさんの手から直接ご寄付をいただく経験で、私たちと同じ普通の市民からのご寄付によって成り立っていると深く理解し、非常にありがたく思っています。(兵庫・大1)

あしながさんの存在を感じた

募金して下さった方に温かい言葉をいただくことがあり、とてもうれしかった。募金ができない期間のこともご存知の方が多く、ようやく再開かと声をかけてくださる方もいて、あしながさんの存在を強く感じた。(兵庫・大3)

詳細は特設サイトをぜひご覧ください





「寄付を続けるために健康に気を付けています」。趣味のお琴とラジオ英会話にも動いている

「あしながの子どもたちも私の子ども」

岩井千津子さんは高校の英語教員として定年まで勤めあげた。現在は4年前に他界した妹の孫と地元のケアセンターに入所している99歳の母親のお世話に加えて、週に1回、ボランティアとして無料塾で子どもたちに英語を教えている。三足のわらじを履きながら、定年後も忙しい毎日を送っている。

高校の教員になったきっかけは、中学生の頃に聞き始めたNHKラジオ英会話。女性が学ぶことに奇異な目を向けられることも多かった時代、父親の強い後押しで大学進学をかなえた。「勉強したいんだったらやればいい。モノは壊れるかもしれないが、自分が努力して身に着けたものは一生の財産だよ」といつも話してくれた。卒業後は教員としての人生が拓けた。教員になり3年目。自営業で家族を支えていた父親が病気で倒れた。ひと月の医療費が数十万円を超えることもあり、一家は生活に困窮した。29歳だった岩井さんは、父、母、弟を自身の扶養に入れ、夢だった留学を諦めてがむしゃらに働いた。14年間の闘病のすえ、父親は他界。岩井さんはその間働きつめ、ゆっくりと父親を看病できる時間がなかったことを後悔した。

こんにちは、あしながさん

岩井 千津子さん (75) 愛知県

父の死から2年後、ひとりの教え子から連絡があった。交通遺児であった彼が、あしなが育英会に就職するという。当時は街頭募金でそっと支援していた。その時、父親の「教育は財産」という言葉を思い出した。「これからは若い人たちのために生きたお金を使いたい」。その教え子を応援するつもりで毎月、定期的に寄付をするようになった。

ある日のこと、学校で3万5千円を入れた封筒を進路指導室に置いたかばんにしまっておいた。いつもの寄付に上乗せしようと、わけておいたボーナスだ。しかし掃除時間の10分の間に、その封筒が消えてしまった。状況から生徒が盗んだことは明らかだった。盗んだ子どもたちの目星はついていない。憤りも感じたが、盗んだ現場を見ていない以上、絶対に疑ってはいけない。その後のある授業中、「あしなが育英会への寄付金をかばんに入れていたらなくなってしまう。寄付できなくなったの。今回は寄付を諦めないといけません。奨学金をもらっている子どものことが心配だ」と生徒たちに話した。

時が過ぎ新年度に突然、学校のポストに新聞の文字を切り貼りした手紙と現金が入っている封筒が入っていた。「手紙の中の『ごめんさい』という文字を見た途端、お金を盗んだあの子どもたちは、罪を犯してしまった心の棘を自分の手で外すことができたはず」と思い涙が止まらなかつた。

「生きてお金使いたい」
「いつか支援は届く」
教員生活で壁にぶつかると、仕事を辞めてしまいたいと思うこともあった。だがその都度、「辞めたら奨学金で勉強している子どもたちが困るかもしれない。寄付のためにも頑張らなきゃ」と教員生活を続けてきた。あしなが育英会の機

あしながさんからの応援メッセージ

喪失体験を持つ「あしながさん」から、あたたかい応援メッセージをいただきました。

◆ 私の母も、幼い頃父を亡くし、あしながさんに助けていただきました。娘の私が社会人として落ち着きましたので、少しでも子どもたちの未来に貢献できるよう寄付をします。どうかふさぎ込まないで、つらい時こそ必ず助けてくれる、見てくれる大人がいます。心のケアに使ってくださると嬉しいです。よろしくお願いします。

◆ 私も若い時に親を亡くしています。親を亡くして苦労している子ども達に、環境や状況に負けずに、幸せになってもらいたいです。今は僅かな金額しか寄付できず申し訳ありませんが、心から応援しています。

◆ 小1の娘と1歳の息子の母です。主人を亡くしました。2年以上の月日が過ぎ、今は前を向いて育児と仕事をする事ができています。もちろん、悲しい日もありますが、絶対に経験したことを無駄にはいけないという思いで生きています。私は子ども達を守るためにも強く、明るく毎日を過ごしたいと思っています。みんなを助けてくれる人は必ずいるから、大丈夫だよ。そして、どんなことがあっても自分の人生だよ。自分のために生きてね。みんなの事を応援しています。一緒に頑張ろう！

◆ 我が家の子ども達も幼いころに父親をガンで亡くしました。なんとか二人は大学院を、一人は大学を卒業しました。教育は大切です。どんなにつらくとも勉学に勤しんでください。天国にいらっしゃる親御さんもそう願っています。私も心から応援しています。

◆ 私も高校生のときに父を病気で亡くしました。つらいことや苦しいこともあると思いますが、前向きに頑張っていれば、必ず報われ、幸せになることができます。お父さん、お母さんに幸せになった姿を見せてあげてください。支援し続けます。

(林若可奈記者)

2022年 奨学生の夏

おさまらないコロナ禍、ウクライナ情勢による生活必需品の値上げラッシュ、日本各地を襲った豪雨……そんな中でも、あしなが奨学生は夢に向かって、勉強や課外活動などに取り組んでいます。奨学生からあしながさんへの残暑見舞い、お気に入りの写真、イラストをご紹介します。投稿してくれたみなさん、ありがとうございました！
(8～13面)

〔表記の例：高(高校)、短(短期大学)、大(大学)、院(大学院)、専(専門学校)、高専(高等専門学校)。数字はそれぞれの学年〕



早田開・愛知県・大3
練習終わりに休憩しています。自分は1番奥

残暑お見舞い申し上げます。
 新型コロナウイルスの感染被害者が毎日増加しており大変な状況です。お気をなつてお過ごしでしょうか。僕は大学の法学部に進学するため、受験勉強に励んでいます。夢は弁護士になることです。特に受験科目の一つである英語を頑張っています。現在は英検準2級を取得しており、今秋に2級を受けます。決山の受験勉強を頑張ります。決山の受験勉強を頑張ります。あしながさんの応援を胸に頑張ります。

高2

私は将来、食を通して人を幸せにしたいという思いを胸に、日々勉強や部活に励んでいます。高校に入って、なれた部に入部し、新しい競技に挑戦しています。様々な技を覚えることで、至極命練習をし、上達することの喜びを感じています。こうして打ち込むことが出来るのはあしながさんのおかげです。いかに感謝しています。暑い日が続きますが、お体に気をつけてお過ごし下さい。

高1



與那嶺結・沖縄県・高1
クラリネットが大好き

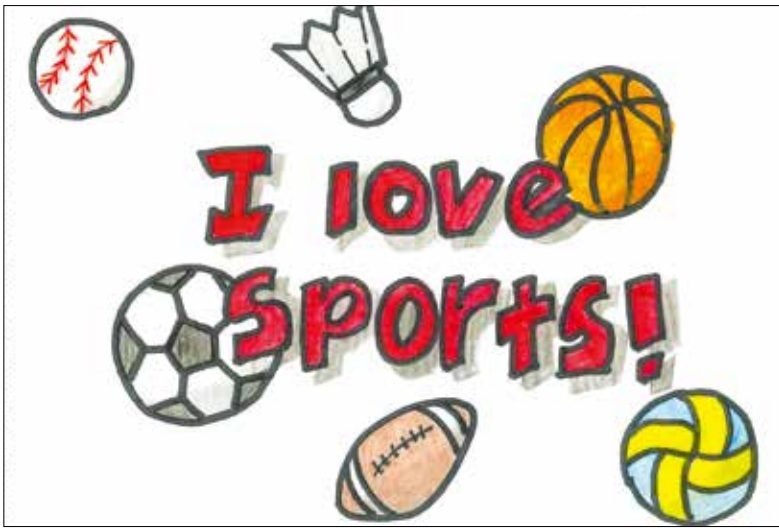
残暑お見舞い申し上げます。
 私は現在大学四回生で、保育を学んでいます。最後の実習が先月終わり、本格的に就職活動が始まりました。
 私もおしながさんのように一人で抱え込んでいる人や困っている人に手を差し伸べられるような保育士になりたいと思っております。まだまだコロナ禍も続きます。辛い時期ではありますが、お身体どうかご自愛ください。

大4



於保友花・福岡県・高3 私の大切な友だち

2022年 奨学生の夏



山城沙羅・兵庫県・大1
スポーツ大好き!

私の学校では、先日学校祭がありました。コロナ禍で色々な制約の中での開催でしたが、クラス一丸となって一生懸命準備を行い、大成功で終わりました。今は自休休み中ですが、たくさん課題や夏期講習があり、毎日頑張っています。これからも、あしながさんへの感謝の気持ちをお大切に頑張ります。

高1

結婚が続いておられますがお元気で過ごしてでしょうか。
私は高校で料理同好会に入会し、パエリアやケーキを作るようになりました。も、と上手に作れるようになりました。家族に作ってあげたいと考えています。また、将来は心理学関係の仕事に就きたいと考え、日々一生懸命勉強を頑張っています。こうしてやりたい事ができるのはあしながさんのおかげです。本当に、ありがとうございます。

高1



岡本空知・京都府・大2
トライアスロンの近畿ブロック選手権で3位入賞し、「いちご一会」とちぎ国体の代表に選ばれました。コロナ禍の中、選手権を開催して頂いた運営の方々だけでなく、大学でトライアスロンをさせてもらっていること、あしながさんに深く感謝しています。



奥田百美・福岡県・高3
体育祭で仲間と。私は右から3番目

私は高校で弓道部に入り、美しい射形を目指して日々練習しています。弓を引くという一つのことに集中する練習にやりがいを感じています。将来は翻訳家になり、海外の映像作品などをより多くの人が見られるようにしたいと考えています。夢を叶えるための勉強に力を入れられるのは、あしながさんのおかげです。感謝を忘れず、部活と勉強共に頑張ります。

高1

私は理学部生物学科に在籍し、酵母の研究をしています。酵母は食品との関係が広く知られていますが、ヒトの生態を知るための研究にも用いられています。私は酵母を用いて、疾患メカニズムなどを解明できれば良いと考えています。このように学業に励めるのは、あしながさんのおかげです。本当にありがとうございます。

大4

私は今年の体育祭で団長に立候補し、仲間と協力してクラスをまとめ、応援優勝を取りたいと思います。高校は活字最高だと思いで出陣させてください。
将来は災害現場で看護師として働きたいと思っております。大学受験に向けて日々勉強に力を入れています。楽しく学校生活を過ごしているのはあしながさんのおかげです。本当にありがとうございます。

高3

私は家族と離れ寮生活をして柔道強豪校に全国制覇を目標に日々練習に励んでいます。練習は厳しく、怪我も多発しましたが、自分の柔道をのりめき大学からスカウトいただきました。最後の夏、仲間の心遣い、これから大学柔道を目指して勉強も頑張りたいと思います。あしながさん、私達を支えてくださりありがとうございました。

高3



稲葉美来・愛知県・高1 夏空



水村心菜・埼玉県・高1
コンクールに向けて夏休みも学校で練習



杉本優奈・岐阜県・高3
高校でできた大切な友だち



宮田健勇・大阪府・高1
校外学習でらぼーとエキスポシティに行きました。私は左から3人目



長瀬桃香・長野県・高3
文化祭で友だちと。1番左のピンクの浴衣が私

私は大学四年生です。先日就職活動を終え、第三志望の企業から内々定を頂く事ができました。辛い過去に私を支えてくれたゲームの制作を通し、沢山の人の笑顔にしたい想いから志望した企業です。私達を応援して下さい。あしながさんのように、私も誰かの救いになれるよう精一杯頑張ります。

大4



玉井烈・神奈川県・大3
人生はじめてライブに参加

私は二年ぶりに出品する書道展に向けて作品の制作に励んでいます。一昨年は中止、昨年は出品できなかったりで良い結果を導くように全力を尽くします。また、希望の進路に進めるように勉強との両立も頑張ります。あしながさんのおかげで書道や勉強に打ち込めています。あしながさんへの感謝の気持ちを込めて頑張ります。

高3

2022年 奨学生の夏

私は現在、大学で水生生物や食糧生産について学んでいます。大学で学んだことを将来役立てたいと思っていますので今年の夏休みは小型船舶の免許をとれるように勉強しています。私がこのように勉学を行えているのはあしながさんの支援のおかげです。この期行に伝えられるようにこれからも励みたいと思います。

大2



福島留衣・岐阜県・高3
草花の授業でシロツメクサの観察

私は最近、登校前に早朝ランニングを始めました。あまり運動もせずに勉強ばかりしてて体が重く感じているからです。ランニングも始めてからは、体は軽くなり、以前より勉強もはかどるようになりました。まだまだ暑い日は続きますが、あしながさんも体調に気をつけてお過ごし下さい。

高2



高部和奏・鹿児島県・高1
串木野名産のソーポメロのキャラクター

私は現在、看護学校に通っています。父が私が4歳の時、脳梗塞で倒れ、人とは少し違う経験をしながら、病院に実習をしに来た父のように方になさる人はい、胸のよい気持ちで勉強に励む日々です。あしながさんを受け持たせてもらったのもあしながさんが背中を押してくれたおかげです。心から感謝しています。暑いのでお体お気を付けて下さい。

専2

私は、将来中学校の教師になろうと考えています。なぜかという、中学校で社会担当の中村先生に出会い、その先生に憧れて、教師の夢を持つようになりました。私は、趣味で、スイーツを作っており、アップルパイなどを作っています。今、こうして大学について考えられるのはあしながさんのおかげです。

高1



森友吾・東京都・大1
アニメのライブイベントにて



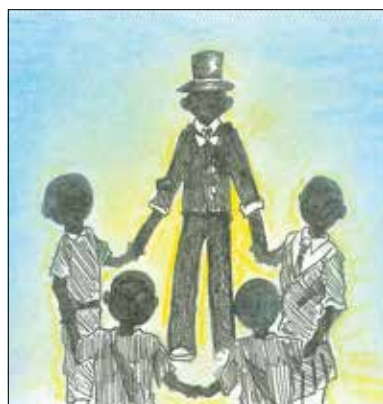
金澤真之介・埼玉県・高2
スケートボードが好き



豊嶋理沙・香川県・大3
コロナ前に京都に旅行に行った時の写真です。コロナがおさまればまた京都に行きたい



古川球英・千葉県・大2
江ノ島水族館での写真。コロナが落ち着いたらもっと遠くに行きたいです



櫻井ひより・山形県・高1
私のあしながさん



宮川伊菜・愛知県・高1
飼っているオカメインコのポテトです



遠藤朋花・宮城県・専1
海で撮りました。私は右側にいます



宮里鷹翔・沖縄県・高専4
ロボコン活動で加工を行っています

私は現在大学で保育について学んでいます。将来は障害を持つ子どもたちや、そのご家族を支える仕事をしたいと考えて日々学んでいます。来年の春からは、実際に障害児のための個別支援教室で保育士として働くことになりました。このように日々学び続け、夢に向かえるのはあしながさんのおかげです。心から感謝申し上げます。

大4



松本ひなた・静岡県・高1
大好きな母と亡き父

私は現在、専門学校で簿記や税務について学んでいます。将来は学んだ知識を活かし、多くのお客様から信頼される税理士を目指しています。また、夢に向かって勉強に取り組むことができてるのはあしながさんのおかげです。心より感謝しています。まだまだ暑い日が続いており、ますます、お体に気を付けてお過ごしください。

専2



桐明一花・福岡県・高1
糸島でヤシの木ブランコに乗りました

2022年 奨学生の夏



山内明仁・宮城県・高1

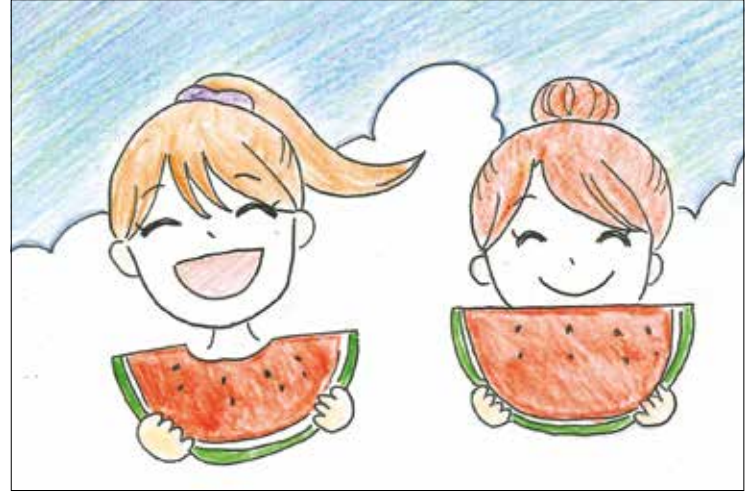
南三陸町に帰省したときに、地元の名所・荒島を眺めている写真です。海には深い思い出があります

私は、中学三年の頃から片落語を始め、現在では学校やホールなど、披露しています。上手く演じられなかったり失敗して、落さす込むこともありますが練習白して人前で披露することはとても楽しく喜びを感じます。私は将来落語家になりたいと思っています。そのためにもあしながさんへの感謝を忘れず、勉強を頑張りたいと思います。

高2



森野晴樹・神奈川県・高1
大好きな祖父と祖母



藤井真憂菜・埼玉県・大3
スイカ大好き



田村透乃・岩手県・高1
夏祭りで金魚すくい。手前にいるのが私

2023年4月に大学進学予定の皆さんへ

あしなが育英会の
大学奨学生寮

2023年4月入塾生
出願受付中
10月20日締切

- 寮費月1万円(朝夕食付) / 首都圏・関西の大学に通学可
- 浴室・洗濯機・キッチン・自習室・食堂など共用設備完備
- 職員・警備員が常駐 / 機械警備導入済 / 交流行事多数

コロナ対策
実施中

出願方法やパンフレット、お問い合わせはこちらから



あしなが心塾

東京都日野市百草 892-1
TEL 042-594-7766
dormitory@ashinaga.org



虹の心塾

兵庫県神戸市東灘区本庄町 1-7-3
TEL 078-453-2418
dormitory.kobe@ashinaga.org



宇高希来李・神奈川県・専2
バイト先の海の家で友だちが遊びに来てくれました。中央が私



高橋凜音・宮城県・高3 私のアしながさん

「つどい」で会いたかった君たちへ

伝統の奨学生サマーキャンプ コロナで延期



コロナ禍の前、最後に開催された「大学・専修各種学校奨学生のつどい」(2019年9月・山梨県西湖)

1970年から毎年夏に行われてきたつどいは、奨学金制度と並んで遺児救済運動における最も重要なプログラムの一つであり、あしながファミリー連帯の要となってきた。2020年以降コロナ禍で実施が阻まれてきたが、学生リーダーの事前研修や会場下見を行い、綿密な感染対策を整えた上で、3年ぶりに大学・専修各種学校奨学生のつどい(山梨県西湖)開催を目指し準備を進めてきた。しかし全国を新型コロナウイルス感染第7波が襲い、感染者が急増し各地の医療がひっ迫す

リーダー育成課長 佐藤弘康

中、参加者やスタッフの安全を確保することが難しくなったことから今夏の開催は残念ながら中止とした。
* つどいでは日常から離れて寝食を共にし、心を開いてお互いに語り合うことで、同時代に生きる遺児や奨学生同士の横のつながり、さらに先輩・後輩の縦のつながりを生んできた。学校の友人や人間関係とは違った特別な仲間を得ることができるところがあしながのつどいだった。親との死別や親の障がい、「自分は一人だ」

と孤独感を深めている奨学生には痛みを分かち合える仲間を。「負けるもんか」と苦難に歯を食いしばり前を向く奨学生には志を高め合える仲間を。つどいであしながさんの存在を知り、仲間と共に自らはどう生きるかという問いに向き合い考えることが、遺児の進学を促進し、あしなが運動に力を与えてきた。
コロナ禍で奪われた最も大きなものはこうした人と人とのつながりだ。つどいことを禁じられ制限された2年の間に、多くの仲間との出会いが失われた。半世紀にわたって引き継がれてきたあしながのつどい文化が途絶えようとしている。来春卒業を迎える現大学4年生がつどいを経験した最後の世代になる。
2019年、コロナ禍前の最後の夏に、大学奨学生のつどいを経験し、高校奨学生のつどいでリーダーを務めた世代が卒業する前になんとしてもバトンをつなぎたい。そのため大学・専修各種学校奨学生のつどいは完全中止ではなく、秋期以降に延期し今年度中の開催を目指す方針だ。つどいに対する強い思いを持ち危機感を共有するたくさんの方々が、引き続きスタッフとして協力することを表明してくれている。その思いを束ねてつどい復活を実現することは私たちの使命だ。

わたしたちは、あきらめない 中心メンバーの思い

「後輩たちにも『つどい』を経験してほしい。自分たちの代で途切れさせたくない」。かつて仲間との出会いで前を向き、自らの可能性に気づくことができた上級生たちは、今夏の伝統復活を目指した。延期とはなったが、開催準備に奔走してきた中心メンバーのあきらめない思いを紹介する。

私が小さい頃に両親が離婚、母は重度のうつ病となり働けなくなっていました。大学1年の夏、初めて西湖のつどいに参加しました。全国の大学生に出会い、各々いろんな過去を持ちながらも必死に今を生きている姿に圧倒されました。なかでもあしながの留学研修で1年間アフリカに行っていたという先輩は400人の先頭に立ち、志を語ってくれました。私も世界をもっと知りたいと思い、翌年アフリカに行きました。大学生活やつどい、留学などで出会った人々や経験は私の人生の選択肢を広げてく



私が小さい頃に両親が離婚、母は重度のうつ病となり働けなくなっていました。

父を亡くし、きつともう進路は選べないと考えていた。「将来やりたいことを学びなさい」、そう言う母へ中学校の先生があしなが奨学金について教えてくださった。おかげで私は5年制の高等専門学校に進学することができ、あしなが育英会の高校奨学生のつどいで出会った仲間の話に大きな刺激を受け、自らの学業へより励むことができた。奨学生たちはそれぞれまさに自由な夢を語っており、コンピュータサイエンスを学びたいと考える私が大学編入を目指すきっかけの一つとなった。



中学2年で父を亡くし、きつともう進路は選べないと考えていた。「将来や

伝えたい世界の広さ、面白さ

夏開催ができなくなったことで、先延ばしになってしまいますが、リーダーである大学生たちと共に、半年分挑戦をして、夏以上に成長した姿で参加者に会えるのが楽しみです。
(山田光花莉・大学4年)

私の情熱を支える刺激的体験

このようにして奨学金が私の学校生活を支え、つどいでのお会いが私の情熱を支えている。
夏の開催はできないが、つどいを経験したことがある数少ない1人として、大学最後の年にこの刺激的なつどいという体験を後輩たちに、何としても引き継がないといけない。運営隊長として、私は参加する奨学生一人ひとりが生き生きと活躍できるように場を作っていきたい。
つどいで人と出会い、自分の志について考えた学生たちが日常に帰り、どのようにその後の生活を歩んでいくのか、そこに正解はない。ただ日々生きていく彼らを勇気づける1つの体験となるように力を尽くしていきたい。
(坂本修平・大学院2年)

遺児の未来のため、遺贈を考えていただけませんか

遺言相談会

In 遺贈寄付ウィーク 2022

弁護士無料相談も

9/13火・14水・15木

9/20火・21水・22木

電話相談 0120-971-546

(遺贈相談室フリーダイヤル) 11時~16時

メール相談

QRコードにアクセスして必要事項をご記入ください。お電話にて返信いたします。



顧問弁護士

樽本 哲 (たるもと さとし) 弁護士
全国レガシーギフト協会 共同代表
NPOのための弁護士ネットワーク
設立者 理事



遺贈相談担当

吉田 和彦 (よしだ かずひこ)
一般財団法人あしなが育英会 常任顧問

「親を亡くした子どもたちのために遺産を役立てたいが、遺言の書き方がわからない」「不動産の寄付方法や税金について知りたい」……こうした疑問にお答えするため、あしなが育英会は9月13日~22日の火・水・木曜日、電話とメールによる「遺言(いごん)相談会」を開催します。

近年、遺産を社会のために役立てる遺贈寄付への関心が高まっています。本会にも、「遺児の学びに役立ててほしい」と遺産を託してくださる方が増えており、昨年、遺贈相談室を開設しました。

今回の「遺言相談会」は、国際遺贈寄付の日(9月13日)にちなんで遺贈寄付ウィーク2022(一般社団法人全国レガシーギフト協会主催。内閣府、法務省、外務省後援)に、特別協賛団体として参加するものです。ご協力いただく樽本哲弁護士は、レガシーギフト協会の共同代表を務めており、遺贈、遺言、相続の手続きや要件に関する一般的な質問を受け付けます(具体的事案や遺言書の作成等は対象外です)。



イラスト・天野聡美



「青い目の日本」のN・バンドーン(ジャーナリスト)が、2年ぶりの街頭募金活動がありがとう。パンデミック禍が続く中、大変でしたね。シカゴ大学のミハイリ・チクセントミハイ教授は、「人はどういう時に幸福感(Happiness)を持つか」をテーマに30年間研究し、10万例を集め、分析した結果、「仕事では半数以上が生きがいを感じ、余暇活動では半数以上が退屈を感じていない」ことを「発見」しました。

幸福感について

幸福とは、富や地位や権力ではなく、日々の経験のなかに最大限の喜びを見出す心の持ち方によって感じるものだというのです。心身を精一杯働かせて何か価値あるものにチャレンジし、それに近づく手ごたえ。そここそが本当の意味でのHappinessを感じる瞬間なのです。勉強も仕事も、そして街頭募金も「本気でやり遂げた」後の充実感や君たちにしか分からないものだと思います。



アフリカ支援の活動報告はこちら

まなざし

ホームページに保護者インタビューを連載しています。ぜひ、お読みください。



コロナ禍を乗り越え、本会が支援しているアフリカの遺児たちが、日本や各国の大学などへ留学を実現しています。アフリカ遺児支援レポートの第3号では、来日したアフリカの遺児と日本の遺児の交流をお伝えしています。

2年ぶりに再会したウガンダ(アフリカ東部)での小学生教育「テラコヤ」の様子もご紹介しています。レポートは本会ホームページで公開しています。ぜひご覧ください。

アフリカと日本の遺児の交流を詳報

人事

【採用】
【8月1日】水迫瑠美 学生事業部・あしなが心塾(東京)

あゆみ
6月11・12日 22年度大学奨学生在学採用面接
6月22日 通常理事会
7月6日 定時評議員会・臨時理事会

心のケア コロナ禍でも継続的な居場所作り

コロナ感染者が再拡大する中、心のケアの拠点「レインボーハウス」では、専門家による感染対策ガイドラインを厳守しつつ、宿泊プログラムを日帰りに変更する等、可能な限りの活動を続けている。

仙台レインボーハウスでは、プログラムの前半は勉強や読書。後半は遊びや体を動かすことやモノ作りも取り入れ「普段は出来ないこと」にチャレンジした。あしながさんのレリーフとの2年ぶりの「対比」では、「20センチも伸びたの！」という歓声があがった(写真右)。石巻レインボーハウスでは8月6日に恒例の「川開き」が開催され、子どもたちと職員は一緒に夜空に広がる花火を見上げた。

神戸レインボーハウス(写真左)では、鬼ごっこなどのほか、「レインボーポスト」を子どもたちに紹介。亡き父母へのメッセージを書くことを通し、自身の気持ちに向き合い表現する。ある女の子は、便箋とハートのシールを手に、「一人きりになって書きたい！」と、亡き父への思いをつづった。投函後は、書いた手紙についてフィシリテーター(ボランティア)と話をし、館内は温かな時間につつまれた。

レインボーハウスには今年に入り遺児家庭から新規の問い合わせ

が増えており、7月時点で昨年度を上回る18件に達した。内訳は、病死10件、自死6件、過労死1件、不明1件。オンラインもしくは来館にてインテーク(初回面談)を行い、希望する家庭は各レインボーハウスで開催するプログラムに参加している。終末期医療の段階での問い合わせや、死別から数日後に面談に至るケースなど、早期につながる家庭が増えてきている。



一般財団法人 あしなが育英会の体制

(敬称略)

■ 理事

会長	玉井 義臣	あしなが運動創始者
会長代行	村田 治	関西学院大学 学長、中央教育審議会委員
	堀田 力	公益財団法人さわやか福祉財団 会長、弁護士、元検事
	樋口 恵子	NPO 法人高齢社会をよくする女性の会 理事長、東京家政大学 名誉教授
副会長	青野 史寛	ソフトバンク株式会社専務執行役員兼 CHRO
	天野 聡美	あしなが画家、イラストレーター
	松本 紘	公益財団法人国際高等研究所所長、理化学研究所相談役、前京都大学総長
専務理事	岡崎 祐吉	一般財団法人あしなが育英会 学生事業部長
理事	工藤 長彦	一般財団法人あしなが育英会 会長補佐
	小林 雅之	桜美林大学 国際学術研究科 大学アドミニストレーション教授
	神余 隆博	関西学院 理事、関西学院大学 特別任期制教授、国連・外交統括センター長
	須田 洋平	弁護士、米国ワシントン州弁護士
	関 亨江	一般財団法人あしなが育英会 事務局長・アフリカ事業部長
	大六野 耕作	明治大学 学長
	田中 愛治	早稲田大学 総長、日本私立大学連盟 会長
	田中 健一郎	弁護士
	曄道 佳明	上智大学 学長
	山口 佳三	北海道大学 名誉教授、北海道大学 元総長、京都大学 監事
	吉岡 知哉	独立行政法人日本学生支援機構 理事長

一般財団法人あしなが育英会は、6月22日に通常理事会、7月6日に定時評議員会を開き、本会の体制が決まった。両会ともコロナ感染防止のため、オンラインで実施した。

■ 評議員

石原 孝代	看護師、社会福祉士、介護支援専門員
緒方 洪章	緒方家洪庵会会長、新宿朝日カルチャーセンター講師、三越カルチャーサロン講師
小倉 良弘	弁護士
小澤 俊朗	元駐南アフリカ特命全権大使、元在ウィーン日本政府代表部大使
カシンスキー・リチャード・ヒデキ	医療法人社団心会和会江東メディカルタワー総院長、米国スタンフォードソリューション共同創設者・ディレクター
加藤 朋江	福岡女子短期大学子ども学科 教授
菅原 直志	東京都議会議員
副田 あけみ	東京都立大学・首都大学東京 名誉教授
堂道 秀明	元駐インド特命全権大使、前国際協力機構(JICA) 副理事長、元外務省中東アフリカ局長
富永 典子	日仏経済交流委員会代表、欧州連合 EU 駐日代表部元儀典課長
長島 美紀	認定 NPO 法人 Malaria No More Japan 理事、一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク業務執行理事、合同会社ながしま笑会代表社員
堀 正二	大阪国際がんセンター名誉総長、大阪大学 名誉教授

■ 顧問

名誉顧問	岡嶋 信治	交通事故遺児を励ます会会長 元財団法人交通遺児育英会理事 元交通遺児を励ます会全国協議会会長
顧問	金木 正夫	米国ハーバード大学医学部マサチューセッツ総合病院 准教授
	櫻井 芳雄	あしなが学生募金提唱者
	吉田 和彦	元あしなが育英会事務局長

■ 監事

小谷 勝彦	日鐵住金建材株式会社 常任顧問、NPO 法人国際環境経済研究所 理事長
日高 清司	弁護士
吉川 明	社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会 常務理事、公益財団法人日本盲導犬協会 顧問



これまでの対戦相手のボクシング人生も背負いリングに立つ
= 5月1日 神戸常盤アリーナにて



試合を終えた後見に来てくれた子どもたちと(右から3人目)



神戸レインボーハウスのケアプログラムでは、子どもたちから「とっくん、とっくん!」と慕われた(左端)

5歳で父を亡くしレインボーハウスへ

心に寄り添うファシリテーター

大学を出て就職後、プロボクサーに

まだ春の日差しを感じるゴールデンウィーク最中の5月1日、神戸常盤アリーナにて、「とっくん」こと徳山洋輝(とくやまひろき)選手(ボクシング)の試合が開催された。彼は子ども時代、神戸レインボーハウスで遊び、大学生になってからは子どもたちと遊ぶファシリテーターとして活躍してくれた卒業生だ。

気づかされた父への気持ち

徳山選手は5歳のときに父親を亡くし、神戸レインボーハウスには小学5年生のときに初めて来館した。人見知り

で緊張したが、ファシリテーターが温かく迎えてくれた。「めっちゃめちゃ面白くて楽しそうな」ファシリテーターのお兄さん、お姉さんと遊べてとにかく楽しかった。そして親を亡くした経験を持つ子どもたちばかりで集まるのは新鮮で、「親がいないことって普通のことやっただんやな」と思った場所だった。亡くした親との思い出を絵に描いたときには、当時夢中だったサッカーを「父親と一緒にやっていた」という強烈な思いが

「とっくんは僕のヒーロー」

とくやまひろき 徳山洋輝 選手 (30)

湧きあがり、たくさん泣いた。幼いときに亡くした父親への思いに気づかせてくれた。「自分の気持ちに気づけた、シンプルに楽しい思いをさせてもらった、この場所に恩返しをしたい。大人だけでも楽しそうにやっているファシリテーターの姿に憧れ、自分もそうなりたい」と思った。

「とっくん」は大学生活の4年間、神戸レインボーハウスのプログラムに皆勤賞。いつもいるお兄ちゃん」として、全身全霊で遊び、彼らの声に耳を傾けた。普段はやんちゃな男の子が、亡くなった親のことでぼろぼろと流した涙をみたとき、「ただ寄り添いたい」と強く思った。ただだ、いつも子どもたちの心の傍にいてくれた。

「レインボーで遊んでもらっていた僕が、逆にファシリテーターの立場になって、子どもたちと遊んでっていうのは、なんかね、夢のような時間でした」

「自分の力だけで勝負したい」ボクシングとの出会いは、大学入学の頃だった。小学生の時からサッカー漬けの日々だったが、大学生になり「自分の力だけで勝負できることをしてみたい!」とボクシングを始めた。大学卒業後、就職する道を選んだが、あきらめきれない思いもあり、プロテストを受け見事パス! 新人王をとり、ランキング入りも果たした。いつもぎりぎりまで恐怖と葛藤しながら、リンクに上がっている。やっぱりボクシングが好きだから、家族をはじめ多くの応援してくれる人の声があるから、挑戦し続けている。

5月の試合には、「とっくん」が当時遊んでいた子どもたちや保護者が応援に駆けつけた。残念ながら負けであったが、その勇姿が伝えたものははかりしれない。

「とっくんは僕のヒーローなんだ!」と、高校生になった男の子が話してくれたことがある。そして、「大学生になったら、私もファシリテーターになりたい!」という声も聞こえてくる。目には見えないバトンが渡されている。

「子どもたちに喜んでもらえたら、好きなことを全力でがんばる姿を見てもらえたら、という思いでしたが、花束や寄せ書き、お手紙なんかをいただき、何より久々に会う子どもたちの成長した姿とうれしそうに顔に僕の方が元気づけられてしまいました。

また子どもたちと遊びに行かなあかなー。試合終了後、そう語る「とっくん」は、「とっくん」のままであった。

5月10日に、息子が誕生し、お父さんになった徳山選手。これからも、多くの人たちに温かい心や勇気を届けていってほしい。

てくれるだろう。

(峰島里奈記者)

グリーフサポートの結晶

※グリーフサポート 喪失・死別体験に伴い表現される感情などに寄り添い、自分らしく歩むことを支えること

遺児が思いを言葉にする場所 レインボーハウスの活動紹介



ボランティアのファシリテーターと一緒に思いを表現する＝神戸レインボーハウス



作文を書くことを通して、前に歩いてく力を育てていく＝あしながレインボーハウス



ご希望の方に無料でお送りします

AC 広告には、この作文集に掲載された作文の一部が使われています。「作文集を読みたい」と希望される方は、メールに下記をお書きいただき、「family@ashinaga.org」へ送信してください。

件名「作文集希望」。本文記載事項①お名前、②職業、③郵便番号と住所、④電話番号、⑤希望冊数（冊数が多い場合はご相談させていただきます）、⑥希望理由。

送料を含め無料です。

「父の日は、お父さんのことを忘れないように、思い出して泣きたい」。ACジャパンの公共広告に取り上げられた遺児の作文は、本会の長年の心のケア活動から生まれた。遺児たちは、亡き父や母への思いを言葉にし、絵に描いたりすることで、少しずつ悲しみを癒し、前へ歩き出す力を育んできた。こうした活動の拠点「レインボーハウス」のプログラムの一部を紹介する。

親というかけがえのない存在をなくした子どもたちのグリーフ（喪失体験に伴い表現される感情や反応）を受け止め、交流し、自分らしくいられる安心安全な居場所、それがレインボーハウスだ。

全国に5箇所（兵庫県神戸市、東京都日野市、宮城県仙台市、石巻市、岩手県陸前高田市）ある。学校や家とは異なる「非日常の空間」として位置付け、子どもたちが抱えている様々な気持ちやエネルギーを、安全な環境の中、安心して表現できるように、あまり（自己紹介、お互いの存在を確認する時間）、まんなか（遊びたいこと、話したいことなど）したい事をする時間、おわり（その日の感想などをシェアし、「またね」

の時間を大事に、グリーフサポートプログラムを開催している。

◆ 親を亡くした子どもは様々な想いを抱え、自分の人生を生きていく。悲しみ、怒り、恋しさ、悔しさ、時には言葉では表現できないような感情に包まれることもあるだろう。レインボーハウスで、子どもたちは、全身全霊で、その時の彼ら自身を表現する。ずっと走り回るとばさばさするエネルギーを発散する子、静かに過ごす子、好きな作品作りに没頭する子、レインボーハウスの友だちやファシリテーターとおしゃべりを楽しむ子。そして、そこには彼らの「あの

ね」に耳を傾け、心に寄り添い続けるファシリテーター、親を亡くしたという同じ体験をした仲間がいる。

◆ そんな環境の中で、少しずつ少しずつ、自分のペースで、仲間と、自分自身と触れ合いながら、彼ら自身の力で、亡き親とその時々自分とつながり直していく。もう一度でいいから会いたい、なぜお父さんは死んでしまったのだろう、そんな深い苦しみや痛みと、その時々立ち止まり、向き合いながら、亡き親への「あのね」という語りとなっていく。亡き親と共に生きながら、他者を思い、自分自身や自分の未来へ眼差しを向けていく。

◆ 日常生活のなかで、子どもたちがこういったつながりを感じる機会が多いとはいえない。

◆ また何気ない際に亡き人について口にする時、「ごめんね」と謝られることもある。子どもたちは亡くなった人や死について話すことがタブーだと感じ、自分の気持ちに蓋をしよう。

◆ レインボーハウスという空間では、その蓋を開けることができる。仲間やファシリテーターと築いてきたつながりの中で、子どもたちから紡ぎ出された作文や手紙、絵、作品、遊び、言葉、どれもが、彼らの尊き心を映している。

◆ ACキャンペーンで取り上げられた遺児の作文も、あしなが心のケア活動の中から生まれた尊き心の結晶のひとつだ。

亡き父を想う作文 大反響

ACジャパン 本会支援キャンペーン開始

「これ、本物の作文なんだ…」
—。公益社団法人ACジャパン
による本会支援キャンペーンが7
月から始まり、大きな反響を呼ん
でいる。

テレビや新聞の公共広告、駅や
電車に貼られたポスターには、本
会の心のケアの拠点「レインボー
ハウス」に通っていた遺児の作文
が使われている。コピーライター
の創作ではなく、亡き父への思い
を込めた「本物の言葉」が多くの
人の心に届き始めている。

ACジャパンは「社会にとって
有益なメッセージを広告という形
で発信」することを目的としてお
り、毎年度、「公共福祉に取り組
む非営利活動団体」の中から審査
を通ったNPOなどの活動を支援
している。

あしなが育英会の公共広告制作
には全国の広告代理店が「ぜひ、
つくりたい」と名乗りをあげたが、
遺児作文集「父の日にお父さんは
いない」(本会編)の一編を取り
上げた大広九州(本社・福岡市)
の作品が採用された。テレビ、ラ
ジオでは「北の国から」「Dr.コト
ー診療所」などで人気の俳優・吉
岡秀隆さんが朗読している。

あしなが育英会は、この公共広
告を通して、親を亡くした子ども
たちへの理解が広がることを願っ
ている。



「お父さんとやりたいこと」(原作) 小学4年 下さん 作文集「父の日にお父さんはいない」より

その夢に、次の一歩を。
～親を亡くした子どもたちに、教育の機会を～

一般財団法人 あしなが育英会
TEL 03-3221-0888 FAX 03-3221-7676
受付時間 平日9:00-17:00 www.ashinaga.or.jp

ACジャパン
関連サイト



このポスターを職場や学校の掲示板などに貼っていただけませんか。
ご協力いただける方は、ご連絡ください。 メールアドレス houjin@ashinaga.org 担当 阿部



4月末の奨学生保護者アンケートで、その窮状が明らかになった。京都に住むお母さんの話を伺った。(田中敏記者)

最近、給料が半減しました。元々低賃金なのに、です。

2009年に夫が逝き、非正規雇用で働き始めました。私はまだまだ働かなくてはなりません。値上げラッシュは本当に苦しく、つらいです。命を削って頑張

って、頑張って、働く人たちの税金だけ上がっていくのは、本当にやりきれない。光が見えませんが……。

亡夫(享年49)とは、91年、職場が縁で知り合いました。当時、経営コンサルタント会社に勤務する私、その会社の自社ビル建設に施工管理者として携わった彼。「完成懇親会」で言葉を交わし、実直で懐深い性格に惹かれ93年に結婚。彼の実家近く大阪府堺市に居をかまえ、私は専業主婦となり支えました。

子育てに恵まれ運命に任せ

第一子・長女を身ごもってから、不思議な体験をしまし



結婚で長女(右)が実家を離れます。聡明で気立て良いお姉ちゃん、絶対に幸福になれるよ。父譲り心優しい長男は大学進学・就職も関東、いつでも待ってるしな。人一倍思いやり深い次女(左)はコロナ禍、大学生生活と就活めっちゃ頑張ったネ! 母より

3人の大学進学「命をかけた」

た。初めは長女出産前、夢に男の子が現れ「ぼくはシンタロウや」と元気に答えました。二人目は長男を出産、名前はそれに習いました。また直後、夢に今度は女の子が現

れ「わたしはミズキ、美しい月」と微笑。次女も授かり、その名をつけました。子宝に恵まれ、私たちは幸福でした。偶然読んだ「シユタイナー教育」(哲学者ルドルフ・シユタイナー博士が提唱)に感銘、「関連校が京都府に開校されることを知り、夫に相談。なんと夫が施工管理者でした。運命に任せ、01年、長女の小学2年進級時に京都へ引越し。子らは同校に

小中高お世話になりました。しかし06年3月。夫は会社の健康診断で直腸ガンが発覚し既にステージ4。即手術も肝転移があり、「余命半年」と宣告され退職しました。7つの職で家計支えた

でも1年位経った頃。集金先の玄関で、自分がどのアルバイトで来たのか分からなくなったのです。「アカン。私が倒れたら子らが路頭に迷う」と猛省。偶然、ある市の生活保護ケースワーカーに就けたのが転機となります。6年間懸命に働き、「困っている方々のお話を真摯に伺い、お手伝いするのが天職や」と気づけました。私は社会福祉士の国家資格取得を決心。早朝深夜週末、人生で一番勉強しました。子らも協力してくれ15年に合格し、翌年から同じ市でコミュニティーソーシャルワーカーとして勤務。今春転職し、女性の権利を守る仕事に邁進中です。

でも、渾身で生き続けてました。ベッドの側で、私は考えました。耳元に近寄り、「あなた… 気になってるんは3人の子らの事やろ?」うちが命をかけて、絶対に、大学までいかせて立派に育てあげる。約束する。そう泣きながら語りかける

と夫は真っ黄色の涙を3すじ流して、翌日、息をひきとりました。子どもたちは育ち盛りの夏休み、末っ子の次女はまだ小学校3年生。預貯金は底をついていました。私は、悲しみを押し殺し、7つのアルバイトを始め家計を支えました。でも、子どもとの時間は大切です。ポステイング、訪問集金係、赤ペン先生(自宅学習の添削)など、子どもたちの帰宅時に在宅できる

みなさまの継続的なご寄付のおかげで私たちの活動が続いています。

- ◆ 郵便局(ゆうちょ銀行) 備え付けの青色の用紙でお振込みされる際は、こちらの口座番号をご利用ください。ご寄付の使いみちは次の5つからお選びいただけます。
- 1 00140-1-541731 あしなが育英会 (あしなが育英会の活動全般に使わせていただきます)
 - 2 00180-0-15595 あしなが育英会あしながさん奨学金係 (国内遺児の奨学金として使わせていただきます)
 - 3 00140-6-98241 虹のかけはし会員 (国内遺児の心のケア活動に使わせていただきます)
 - 4 00130-7-776732 あしなが東日本大震災遺児支援募金 (東日本大震災遺児の支援に使わせていただきます)
 - 5 00150-3-734125 あしながアフリカ遺児教育支援 (アフリカ遺児の奨学金や教育支援に使わせていただきます)

【重要なお知らせ】2022年1月17日より、郵便局(ゆうちょ銀行)での現金払込みに手数料が新設されました。大変恐れ入りますが、必要な手数料のご負担をお願い申し上げます。なお現金の払い込みではなく、ご自身のゆうちょ銀行口座からご送金いただく場合は手数料の加算は発生いたしません。

◆ お問い合わせ

フリーダイヤル(寄付課直通) 平日10時~16時
0120-916-602

Eメール
 supporter@ashinaga.org

詳しくはウェブサイトをご覧ください
<https://www.ashinaga.org/support/donation/>

遺贈のご相談も 受けたいまわっています 「遺言相談会」のお知らせを15面に掲載しています。

フリーダイヤル(遺贈相談室直通) 平日9時~17時
0120-971-546

不動産などのご寄付もうけたまわっています。お気軽にお問い合わせください。
 Eメール legacy@ashinaga.org